

令和8年度 教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号	39	学校名	東濃高等学校
------	----	-----	--------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	多様な価値観や個性、文化を持つ生徒が共に育ち学ぶ高校として 主体的な学びと地域に根差した教育活動を通して 次代を担い、ふるさとに貢献できる人材の育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	知・徳・体の調和のとれた将来有為な人材を育成する。		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てるか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> 自ら学び、自ら考え、判断し、適切な行動ができる生徒 多様な価値観、個性、文化を認め、互いを尊重して行動できる生徒 学校での学びや経験を活かして、社会で信頼され、貢献できる生徒 	
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」を実現するカリキュラムの編成と授業実践 互いの個性や価値観を尊重し、共感できる人間性と自己肯定感を育む教育活動 主体的に学ぶ「探究活動」や地域と連携した「キャリア教育」の推進 	
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣が身に付いており、自己管理ができる生徒 ルール・マナーを守り、他者に配慮した行動ができる生徒 社会に貢献したいとの意欲をもち、努力することができる生徒 	
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> 「分かる授業」や「主体的で対話的な深い学びを体現する授業」の研究を継続し、観点別評価のあり方を検討するとともに、生徒の学力の伸長を図ること。 基本的な生活習慣や規範意識だけでなく、社会で生きるためのコミュニケーション能力やソーシャルスキルを身に付け、あたりまえを大切にできる生徒を育てること。 地域や外部機関と連携した体験的活動の機会を充実させ、校外外において生徒が活躍する場をさらに設けることで、自己肯定感や自己有用感に加えて帰属意識を育てること。 「多言語サポートチーム」を設置し、「外国につながる生徒」へのキャリア教育を含めた総合的な支援を一層進めるとともに、保護者の深い理解と協力を得ること。 業務の精選や分掌業務の再構築、適材適所の人員配置を行うとともに、職員自身が意識して働き方改革に取り組み、ワーク・ライフ・バランスの充実を図ること。 		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの学力の向上とすべての生徒が学べるインクルーシブな学習環境を整えることによって、自ら学ぼうとする意欲を引き出す授業を展開します。 I C T機器(タブレット)や学習支援サービスの活用や少人数教育に加えて、「ふるさと教育」の推進等により、生徒の「探究的な学び」を意識した授業展開を工夫します。 	
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解を進め、計画的なキャリア教育を含めた総合的な支援を推進し、社会で生きるためのコミュニケーション能力と社会貢献のマインドを育成します。 自己のあり方生き方を考えさせ、勤労観・職業観を育てるための活動を計画的に配置するとともに、将来を見据えた進路設計を促し、進路希望の実現を目指します。 	
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 信頼と愛情に基づく共感的な理解に徹し、思いやりの心をもち、主体的に判断し、積極的に自己を生かし、自他の生命や人権を尊重できる生徒を育成します。 他者の立場を理解し、共感する力を育て、幅広いものの見方や奉仕の精神、健康でたくましい心身、規律ある生活態度を育成します。 	
	学校経営	<ul style="list-style-type: none"> 教職員が健康でいきいきと生徒と向き合える教育環境を整えるとともに、生徒の可能性を信じ抜く強さと温かさをもち、地域から信頼される学校づくりを推進します。 スクールミッションに掲げる本校の役割を踏まえて、あらゆる教育活動を支える校内体制を構築し、生徒一人ひとりの個性や努力を認めて伸ばし、自己肯定感と帰属意識を育てます。 	
教育職員の業務量管理・健康確保措置の実施	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革を推進するため、「出退勤管理システム」等の活用により教職員の適正な勤務時間の管理を行い、過重な勤務状況を把握し、職員への声かけや指導を徹底します。 「早く家庭に帰る日」や「ノー残業デー」の徹底や計画的な休暇の取得促進により、教職員の業務の効率化や健康管理への意識を高めます。 		

領域分野	年度目標			年度末評価(自己評価)			
	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	「授業のユニバーサルデザイン化」や「評価の可視化」、「加点方式」により、学習内容や到達目標を明確化し、生徒が主体的に取り組める授業を実践します。	施策Ⅱ-8	・生徒の授業評価に基づいた教員の授業改善が図れたか。				
	I C T機器(タブレット)や学習支援サービスの活用、校内研修、授業公開、授業アンケートなどを通して授業改善に努め、「わかる授業」を実践します。	施策Ⅱ-9	・生徒及び教員による授業評価(肯定的評価80%) ・教員による授業評価(実施回数1回以上)				
	地域探究活動や、家庭科選択科目での「みたく華ずし」体験など、御嵩町との連携や外部人材の活用により、ふるさと教育を推進し、生徒の「探究的な学び」を意識した授業展開を工夫します。	施策Ⅰ-4	・生徒及び教員による授業評価(肯定的評価80%) ・学校評価アンケート(生徒の肯定的評価80%)				
	「外国につながる生徒」に対し、学校設定教科「日本語」の開講や適応指導員の配置により、きめ細かい学習指導をするとともに、高校生活への積極的な支援を行います。	施策Ⅳ-22	・生徒の授業評価に基づいた教員の授業改善が図れたか。				
進路指導	演劇表現ワークショップやキャリア教育プログラム等の行事のほか、ふだんの学校生活の中で対話を大切にし、コミュニケーション能力を育成します。	施策Ⅰ-1	・講師からの意見聴取。 ・生徒及び教員対象アンケート(肯定的評価80%)				
	類型や選択科目、学習支援サービスの活用により多様な進路希望に応えるとともに、進路ガイダンス等を通じて自己のキャリア形成を支援します。	施策Ⅱ-13	・連携講座の実施(10回以上実施) ・生徒及び教員対象アンケート(肯定的評価80%) ・学校評価アンケート(肯定的評価80%)				
	御嵩町や国際たくみアカデミー等との連携や、地域創生キャリアプランナーの配置により、進路目標実現に向けてのスキルを習得させるとともに、正しい職業観を育成します。	施策Ⅱ-13	・充実したキャリア教育を実施することができたか。 ・学校評価アンケート				
	個々の適性と希望を尊重し、一人ひとりが夢をもち、進路目標の実現に向けて意欲をもって学習できるように、3年間を見通したキャリア教育を実践します。	施策Ⅳ-23	・安全な登下校と挨拶の励行、身だしなみを整えることができたか。 ・学校評価アンケート				
生徒指導	全職員の共通理解のもと『『あじみ』のできる学校』をキャッチフレーズに、挨拶の励行、時間を守る行動、身なりを正すことに重点を置き、基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を目指します。	施策Ⅲ-19	・安全な登下校と挨拶の励行、身だしなみを整えることができたか。 ・学校評価アンケート				
	部活動やボランティアなど校外の活動を充実させ、自己肯定感と帰属意識を育てながら、活力ある学校づくりと思いやりあふれる心の育成につなげます。	施策Ⅳ-24	・部活動加入率の上昇。 ・ボランティア参加人数(延べ100人以上の参加)				
	信頼と愛情に基づく共感的な理解に徹し、すべての教育活動を通して公平かつぶれない生徒支援を目指すとともに、教育相談体制の充実を図ります。	施策Ⅰ-2	・学校評価アンケート(肯定的評価80%)				
	心身の健康管理を自分で適切に行うことができるとともに、規律ある高校生活と社会の一員としてのマナーを身に付け、社会に貢献できる生徒の育成を目指します。	施策Ⅰ-1	・安全な登下校と挨拶の励行、身だしなみを整えることができたか。				
学校経営	出退勤管理システム等の活用により教職員の適正な勤務時間の管理を行い、過重な勤務状況を把握し、職員への声かけや指導を徹底し、ハラスメントのない働きやすい職場づくりに努めます。	施策Ⅳ-28	・業務の精選及び効率化を図れたか。 ・時間外勤務時間が月45時間を超える職員数(前年より減→目標0人) ・定時退庁日や「ノー残業デー」は徹底できたか。				
	「早く家庭に帰る日」や「ノー残業デー」の徹底や計画的な休暇の取得促進に加え、業務の精選や教職員の業務の効率化、健康管理への意識を高めます。	施策Ⅳ-27	・ホームページのトピックスの更新回数を増やせたか。 ・学校評価アンケート				
	授業の公開やホームページなどを通して、本校の教育活動が保護者や地域の方々にさらに理解されるような広報活動に努め、地域に開かれた学校を目指します。	施策Ⅳ-20	・前年度と同等かそれを越える教職員による研修の受講。(教職員による、研修の機会の増加)				
	教職員自らが研修等の機会を積極的に活用し、自己研鑽する中で、幅広い教養と高い専門性に加えて、生徒の可能性を信じ抜く強さと温かさをもち、愛情と使命感にあふれる教育者の育成を目指します。	施策Ⅳ-26					

来年度に向けての改善方策等 実施日：令和9年 月 日 学校関係者評価 実施日：令和9年 月 日

--	--